

三諦について

－真実の姿を明らかにする方法－

三諦とは何か

物事の真実の姿は、一方の面だけで見極めることはできません。また、対立する二つの面だけで、全体的な把握をすることも完全ではありません。

そこで、対立する二面いづれにも偏ることなく、両方を融合して真実の姿を明らかにする第三の面が必要となります。

天台大師は、諸法の実相を明らかにする方法として、この三方面を「空假中の三諦」として説き、さらにこの三諦を修行することによって苦の根源である見思・塵沙・無明の三惑を断ずることができると説きました。

「諦」とは審諦とも言い、「つまびらか」「あきらか」ということであり、真実不虛の義で、仏の悟りによる真理を意味します。

この三諦の名は、『仁王経』の「二諦品」に出ていますし、空假中の名は、『菩薩瓔珞本業経』の「賢聖学観品」と、『中観論』の「四諦品」に出ています。

ちなみに、中国の慧文禅師は『中観論』の、

「因縁所生法 我說即是空 亦為是假名 亦是中道義」

という四句によって三諦の妙旨を悟ったと言われ、それを弟子の南岳大師に授け、さらに南岳から天台大師に伝えられたと言われています。

三諦の特徴

〈空 諦〉

「空」の字は一般的に「うつろ・ない・欠けた」という意味に理解されていますから、「空とは無（非存在）」と考えがちですが、仏教では精神のあるものも、ないものも、一切世間のものはすべて因縁によって生じており、因縁によって生じる事物は、それ自体に実体はないとし、これを空と説いています。つまり、一切の事物には実体がないという真理を空諦と言うのです。

天台大師は、小乗仏教の説く空は、存在を分析して空であることを観ずる析空観であり、大乘仏教の説く空は、存在そのものを直ちに空と観ずる体空観であると説いています。

また小乗は、空のみを見て不空を見ないから但空と言ひ、大乘は一切の存在を空であると見ながら、同時に空でない假諦・中諦の面も見るので不但空と言ひます。

〈假 諦〉

假諦とは、いかなるものも、実在はしないけれども、現実には、その姿がはっきりと現われていることを言います。

假とは「仮に想定されたもの」のことであり、実在しないけれども比喩的な意味で「存在する」と説くことです。故に、実体性はないものの、現象として仮に存在する意味として用いられています。現象としての諸法が仮であることは、『大品般若経』に、

- ①物体は多くのものが集まって作り上げられている。(受仮)
- ②法そのものは、因と縁とによって生じたものである。(法仮)
- ③すべては名のみあって、実体のないものである。(名仮)

の三仮が説かれ、あらゆるものに自性（もの自体の本性）のないことを示して、凡夫のとらわれを破しています。

〈中 諦〉

中諦とは、假諦と空諦の二辺に執着しない中正の真理を言います。

つまり、すべてのものは、因縁によって仮に存在しているに過ぎない故に空であり、空という固定的な体もない故に、空もまた空と言えます。したがって、假と空を共に否定し、空と假を共に立てて偏執のないところに真実がある、というのを中諦とも中道とも言います。

この中道は、二者の中間というような折衷的な考えでなく、空諦と假諦の両面を包摂したところの真理ということが出来ます。

この中道を四教（釈尊の教えを藏教、通教、別教、円教の四つに分類したもの）の上に見るとき、藏教には中道が存在しないので「無中」と言い、通教は中道を含むので「含中」、別教は単独の中道しか説かないので「但中」、円教は三諦円融の中道を説くので「不但中」と言います。

隔歴三諦と円融

この三諦の見方には二つあります。

一には、三諦各々を個々に独立した真理として考える別教の「隔歴の三諦」です。二には、三諦の孤立性を廃して、一諦のうちに互いに三諦を具えて、各々が即空・即假・即中であると立てる円教の「円融の三諦」です。

「隔歴の三諦」とは、次第三諦とも言います。空假中の三諦が各々別であって、空諦は空であって假・中ではなく、假諦は仮にして空・中ではない、中諦は中であって空・假でない、という意味であり、別教で説く教えです。

これに対し「円融の三諦」は、空假中の三諦が互いに融け合い、三諦の各々が他の二

諦を互いに具することで、空諦そのままが仮諦・中諦であり、仮諦そのままが空諦・中諦であり、中諦そのままが空諦・仮諦であると説きます。

この「円融三諦」の法理を円教と言いますが、天台大師は、この円融三諦を^{りょうげ}領解し感得するために一心三観の修行を立てました。

三観とは、三諦を観ずることを言い、衆生の一念がそのまま円融の三諦であると、明らかに観ていくことです。

この一心三観によって覚知する法理が一念三千です。

『御義口伝』には、

「^{えんゆう}円融三諦は何物ぞ。所謂南無妙法蓮華經是なり。此の五字は日蓮出世の本懐なり」

(御書 一七二九頁)

と示されています。

日蓮大聖人は、天台の立てる一念三千を^{りかん}理観であるとし、末法の衆生を直ちに悟りの境界へと達せしめる事行として、三大秘法の大御本尊を確立されたのです。